

授業科目	CT2J62	1単位	選択	演習	2学年前期	担当 教員	池田 正雄	松浦 信二					
	保育実習指導 I (施設)						三沢 徳枝	佐藤 高博					
授業の概要	① 居住型児童福祉施設等及び障がい児通所施設等において10日間の実習を行い、施設の役割と機能について理解を深める。 ② 職員の指導に基づき、利用児・者の観察や関わりを通して理解を深め、個々の状態に応じた援助や関わりについて学ぶ。 ③ 施設職員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。												
到達目標					学習成果 I			学習成果 II			学習成果 III		
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1. 保育実習 I (施設)の意義・目的を理解し、実習における自らの課題を明らかにする。					◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	◎
2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3. 実習の計画、観察、記録の方法や内容について具体的に理解する。					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題を明確にする。					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5. 保育実習 I (施設)の意義・目的を理解し、実習における自らの課題を明らかにする。					◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎
凡例 ◎: 学習成果 I～III を獲得するために特に重要な目標、○: 学習成果 I～III を獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はivページ参照													
	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標						復 習				
1	オリエンテーション 施設実習の目的	教科書 p. 8～11 を読んでおく。	保育実習指導 I の授業の流れを理解する。 施設実習の意義と目的について理解をする。						学んだことをまとめておく。				
2	施設実習の内容	教科書 p. 12～15 を読んでおく。 実習先の概要についてそれぞれ調べてくる。	実習する施設の概要を理解し、実習資料（事後報告会）を参考にし、実習について、全体的な理解をする。						実習先について、全体的にまとめてしておく。				
3	施設の理解(1) (実習のねらいを考える)	教科書 p. 16～37、p. 62～89 を読んでおく。	自分が実習する施設について理解を深める。 他の実習生の施設についての報告を聞き、児童福祉施設等に関する知識を得る。						資料を読み、実習先についての理解を深め、疑問点を明らかにしておく。				
4	施設の理解(2)	教科書 p. 16～37、p. 62～89 を読んでおく。	児童福祉施設等に関する理解を基に、他職種連携について理解を深める。 実習資料を基に、各施設の一日の流れを理解し、利用児・者への関わり方について討議し、理解を深める。 実習に必要な生活技術について確認し、自分自身の課題を明確にする。						資料を読み、実習先についての理解を深め、疑問点を明らかにしておく。				
5	実習の目標の設定	教科書 p. 40～41、p. 44～47 を読んでおく。	実習にどのような態度で臨むべきか、何を学ぶべきかを考え、実習の目標を設定する。						実習の目標をまとめておく。				
6	実習日誌の書き方(1)	教科書 p. 90～101 を読んでおく。	実習資料(プラムドリル)を用いて、実習日誌を書く目的および基本的な書き方について理解する。 教科書 p. 96～97 の課題に取り組み、実習日誌の書き方について具体的に理解する。						教科書 p. 96～97 に、学んだ内容を踏まえて書き込んでおく。				

7	実習日誌の書き方(2)	教科書 p. 90～101 を読んでおく	実習資料（プラムドリル）を用いて、日誌の「今日の学び・考えたこと」の記載内容と留意点について確認し、理解する。 翌日の実習課題への繋がりを意識した考察のあり方について学ぶ。	学習内容のまとめ、資料の確認をする。
8	実習日誌の書き方(3)	教科書 p. 112～115 を読んでおく。	実習資料（プラムドリル）を用いて、考察のあり方について学ぶ。	学習の内容をまとめ、資料の確認をする。
9	オリエンテーション	教科書 p. 42～43、p. 48～51 を読んでおく。 実習の手引きの該当箇所を読んでおく。	学内オリエンテーション 事前訪問の目的を明確にし、確認事項について各自まとめる。 実習の流れを確認し、必要なマナーと守るべきルール、提出物の確認をする。	午後の実習先でのオリエンテーションを、実習の1日目と考え、必要なマナーおよびルールを確認すること。 事前訪問で確認できた内容についてまとめ、実習の手引きに書き込んでおく。
10	実習計画の作成	教科書 p44～47、60～63、64～89、112～115 のうち該当する部分を読んでおく。	実習計画を考える。 10日間の目標を考える。	実習計画、10日間の目標を完成させておく。
11	指導計画案の書き方(1)	教科書 p. 102～105 を読んでおく。	指導計画の立案の仕方と具体的なポイントについて理解する。 指導案(1)を作成する。	指導計画案を清書し、提出の準備をする。
12	レクリエーション指導計画案の書き方(2)	教科書 p. 106～111 を読んでおく。	指導計画の立案の仕方と具体的なポイントについて理解する。 指導案(2)を作成する。	指導計画案を清書し、提出の準備をする。
13	実習におけるトラブルシューティング 実習前の事前確認	教科書 p. 116～122 および Part3 の事後確認を読んでおく。	トラブル例から、実習を通して必要な心構えについて考察する。 実習後までの流れを理解し、主体的に実習に臨めるようにする。	学習のまとめと実習に向けた準備をしておく。
14	実習の振り返り 感想文・自己評価 自己アンケート	教科書 p. 126～135 を読んでおく。 実習日誌を読み直して読む。	実習を振り返り、実習報告書（事後アンケート）に記入し、感想文を書く。 実習の手引きに、まとめ、反省ならびに自己評価を記入する。	実習の手引きの該当箇所に記入をし、次回の報告会の準備をしておく。
15	実習報告会と今後の課題	実習報告会と反省会を行う。	報告会を行う。 自己評価と実習先からの評価を参考に実習を振り返り、実習の目標の達成度について総括し、今後の自らの課題を明確にする。	実習、反省会、報告会などを振り返り、新たな課題と次の学習目標を明確にしておく。
成績評価	授業への取り組み 30% 課題・書類等の提出 40% 手引き・事後学習への取り組み 30% 合計 100%			
教員からのコメント	<p>① 施設での実習を通して、養護・支援や社会的養護の場に加わっての実践的学びが可能になり、保育者としての専門性をより高めることができます。そのためにも、事前の学びによる十分な準備と事後の振り返りを行いましょう。</p> <p>② 今日の保育現場が抱える現代的課題を理解し、みなさんが保育者になったとき、子どもたちや保護者とどのように関わるかについて、常にイメージしながら授業に参加してください。</p> <p>③ 課題提出があります。期限を守って提出してください。</p>			
教科書	書名 施設実習パーフェクトガイド 著者 守巧、小櫃智子、二宮裕子、佐藤 恵 発行所 わかば社	推薦図書	書名 授業の中で随時紹介する 著者 発行所	